

「後志利別川流域タイムライン試行版」完成式

平成30年7月26日（木）今金町民センターにおいて、『「後志利別川流域タイムライン試行版」完成式』を開催しました。完成式では、タイムライン試行版の完成報告を行った後、今金町、せたな町、函館地方気象台、函館開発建設部の4者によるタイムライン運用に関する協定が締結されました。

- 開催日時 平成30年7月26日（木） 13：30 ～ 14：20
- 実施場所 今金町民センター
- 参加機関 今金町、せたな町、函館地方気象台、函館開発建設部 他 13機関 約90名

開会

開会にあたり函館開発建設部の菊池部長は、挨拶の冒頭で平成30年7月豪雨の犠牲者へ哀悼の意と被災者へのお見舞いを述べ、「4回の検討会を経て試行版の完成に至った後志利別川流域タイムラインは、多くの関係機関が連携するタイムラインとしては道内では、石狩川滝川地区、沙流川平取地区、沙流川日高町富川地区に次ぐ完成となるが、流域全体の自治体を網羅するタイムラインとしては全国初の完成となる。このタイムラインを実際に運用し、振り返り、見直すことで実効性のあるものに発展させていくことが重要である。」と述べました。



函館開発建設部
菊池部長

タイムライン試行版の完成報告

函館開発建設部今金河川事務所の秋山所長が、これまでの議論を踏まえて完成した「後志利別川流域タイムライン試行版」の検討経緯とタイムラインの概要を説明し、函館地方気象台の榎本防災管理官が、後志利別川流域におけるタイムライン試行版の今後の運用方針について説明しました。



函館開発建設部
今金河川事務所
秋山所長



函館地方気象台
榎本防災管理官

協定式：協定締結

後志利別川流域タイムラインに基づく、迅速かつ的確な事前防災行動による住民の円滑な避難誘導、被害軽減をより確実なものとしていくため、今金町、せたな町、函館地方気象台、函館開発建設部の4機関による流域タイムライン試行版の運用協定の締結が行われました。



協定式の様子

（いずれの写真も、左から函館開発建設部菊池部長、せたな町高橋町長、今金町外崎町長、函館地方気象台宮尾台長）

今金町長挨拶

協定機関を代表し、今金町の外崎町長から挨拶があり、「『試行』という言葉が重要であり、これで完成ではなく、実際に使った上で、見直し・改善していくことが重要で、本日がスタートラインである。自治体の一番の役割は住民の命を守る。役場職員時代は防災部署も経験しているが、防災部署が単独で災害対応を担当するのではなく、災害対応の『窓口』の1つであり、様々な人が役割を持って対応していくことが重要である。」と述べました。



今金町 外崎町長

せたな町長挨拶

協定機関を代表し、せたな町の高橋町長から挨拶があり、「本日、協定書に署名できたこと、全国初の流域タイムライン試行版が完成したことを嬉しく思っている。これまでの検討会等を通じ、顔の見える関係に基づく関係機関の連携が図られ、完成したタイムラインを活用することにより、避難判断等の意思決定、防災行動の円滑化など甚大な被害を発生させない体制が強化されたと認識している。」と述べました。



せたな町 高橋町長

閉会

閉会にあたり函館地方気象台宮尾台長が、「検討会に参画して、水害に限ってもいかに多くの機関が関わり、いかに影響が多岐にわたるかを再認識した。タイムラインの検討に用いたシナリオは、リアリティを持たせるようにしたとはいえ、過去の事例に基づくシナリオである。実際に発生する一つ一つの災害は、場所も時刻も規模も様相を異にするものである。過去の事例を遙かに超える可能性は常にあり、想定は常に超えられるものとの覚悟を持って、関係機関が連携してタイムラインを運用する努力が必要。」と述べました。



函館地方気象台 宮尾台長



<会場全体の様子>